

【看護職員として必要な基本姿勢と態度についての到達目標】

看護職員として必要な基本姿勢と態度については、新人の時期のみならず、成長していく過程でも常に臨床実践能力の中枢となる部分である。

		配属部署	名前	年 月				
★:1年以内に経験し、修得を目指す項目				中間	★	到達目標	当院の目安	一年後
到達の目安 II:指導の下でできる I:できる								
看護職員としての自覚と責任ある行動	①医療倫理・看護倫理に基づき、人間の生命・尊厳を尊重し患者の人権を擁護する			★	I	I		
	②看護行為によって患者の生命を脅かす危険性もあることを認識し行動する			★	I	I		
	③職業人としての自覚を持ち、倫理に基づいて行動する			★	I	I		
患者の理解と患者・家族との良好な人間関係の確立	①患者のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する			★	I	I		
	②患者を一個人として尊重し、受容的・共感的態度で接する			★	I	I		
	③患者・家族が納得できる説明を行い、同意を得る			★	I	I		
	④家族の意向を把握し、家族にしか担えない役割を判断し支援する			★	II	II		
	⑤守秘義務を厳守し、プライバシーに配慮する			★	I	I		
	⑥看護は患者中心のサービスであることを認識し、患者・家族に接する			★	I	I		
組織における役割・心構えの理解と適切な行動	①病院及び看護部の理念を理解し行動する			★	II	II		
	②病院及び看護部の組織と機能について理解する			★	II	II		
	③チーム医療の構成員としての役割を理解し協働する			★	II	II		
	④同僚や他の医療従事者と安定した適切なコミュニケーションをとる			★	I	I		
生涯にわたる主体的な自己学習の継続	①自己評価及び他者評価を踏まえた自己の学習課題をみつける			★	I	I		
	②課題の解決に向けて必要な情報を収集し解決に向けて行動する			★	II	II		
	③学習の成果を自らの看護実践に活用する			★	II	II		

【管理的側面についての到達目標】

看護実践における管理的側面については、それぞれの科学的・法的根拠を理解し、チーム医療における自らの役割を認識した上で実施する必要がある。

		配属部署	名前	年 月				
★:一年以内に経験し修得を目指す項目				中間	★	到達目標	当院の目安	一年後
到達の目安 II:指導の下でできる I:できる								
安全管理	①施設における医療安全管理体制について理解する			★	I	I		
	②インシデント(ヒヤリ・ハット)事例や事件事例の報告を速やかに行う			★	I	I		
情報管理	①施設内の医療情報に関する規定を理解する			★	I	I		
	②患者等に対し、適切な情報提供を行う			★	II	II		
	③プライバシーを保護して医療情報や記録物を取り扱う			★	I	I		
	④看護記録の目的を理解し、看護記録を正確に作成する			★	II	II		
業務管理	①業務の基準・手順に沿って実施する			★	I	I		
	②複数の患者の看護ケアの優先度を考えて行動する			★	II	II		
	③業務上の報告・連絡・相談を適切に行う			★	I	I		
	④決められた業務を時間内に実施できるように調整する				II	II		
薬剤等の管理	①薬剤と適切に請求・受領・保管する(含、毒薬・劇薬・麻薬)				II	II		
	②血液製剤を適切に請求・受領・保管する				II	II		
災害・防災管理	①定期的な防災訓練に参加し、災害発生時(地震・火災・水害・停電等)には決められた初期行動を円滑に実施する			★	II	II		
	②施設内の消火設備の定位置と避難ルートを把握し患者に説明する			★	I	I		
物品管理	①規定に沿って適切に医療機器、器具を取り扱う			★	II	II		
	②看護用品・衛生材料の整備・点検を行う			★	II	II		
コスト管理	①患者の負担を考慮し、物品を適切に使用する			★	II	II		
	②費用対効果を考慮して衛生材料の物品を適切に選択する			★	II	II		

【技術的側面：看護技術についての到達目標】

部署 _____ 氏名 _____

到達の目安 V:出来ない IV:知識としてわかる III:演習できる II:指導の下でできる I:できる

★:1年以内に経験し、修得を目指す項目

		中間	★	到達目標	当院の目安	一年後
環境調整技術	①温度、湿度、換気、採光、臭気、騒音、病室整備の療養生活環境調整(例:臥床患者、手術後の患者等の療養生活環境調整)		★	I	I	
	②ベッドメイキング(例:臥床患者のベッドメイキング)		★	I	I	
食事援助技術	①食生活支援			II	II	
	②食事介助(例:臥床患者、嚥下障害のある患者の食事介助)		★	I	I	
	③経管栄養法		★	I	I	
排泄援助技術	①自然排尿・排便援助(尿器・便器介助、可能な限りおむつを用いない援助を含む)		★	I	I	
	②導尿			I	I	
	③膀胱内留置カテーテルの挿入と管理			I	I	
	④浣腸			I	I	
	⑤摘便			II	I	
活動・休息援助技術	①歩行介助・移動の介助・移送		★	I	I	
	②体位変換(例:①及び②について、手術後、麻痺等で活動に制限のある患者等への実施)		★	I	I	
	③廃用症候群予防・関節可動域訓練			II	II	
	④入眠・睡眠への援助		★	II	II	
	⑤体動、移動に注意が必要な患者への援助(例:不穏、不動、情緒不安定、意識レベル低下、鎮静中、乳幼児、高齢者等への援助)		★	II	II	
清潔・衣生活援助技術(例:①から⑥について、全介助を要する患者、ドレーン挿入、点滴を行っている患者等への実施)	①清拭		★	I	I	
	②洗髪			I	I	
	③口腔ケア		★	I	I	
	④入浴介助			I	I	
	⑤部分浴・陰部ケア・おむつ交換		★	I	I	
	⑥寝衣交換等の衣生活支援、整容		★	I	I	
呼吸・循環を整える技術	①酸素吸入療法		★	I	I	
	②吸引(口腔内、鼻腔内、気管内)		★	I	I	
	③ネブライザーの実施		★	I	I	
	④体温調整		★	I	I	
	⑤体位ドレナージ			II	II	
	⑥人工呼吸器の管理			IV	III	
創傷管理技術	①創傷処置			II	II	
	②褥瘡の予防		★	I	I	
	③包帯法			II	II	
与薬の技術	①経口薬の与薬、外用薬の与薬、直腸内与薬		★	I	I	
	②皮下注射、筋肉内注射、皮内注射			I	I	
	③静脈内注射、点滴静脈内注射			I	I	
	④中心静脈内注射の準備・介助・管理			II	II	
	⑤輸液ポンプ・シリンジポンプの準備と管理			I	I	
	⑥輸血の準備、輸血中と輸血後の観察			II	II	
	⑦抗菌薬、抗ウイルス薬等の用法の理解と副作用の観察		★	II	II	
	⑧インシュリン製剤の種類・用法の理解と副作用の観察			II	II	
	⑨麻薬の種類・用法の理解と主作用・副作用の観察			II	II	
	⑩薬剤等の管理(毒薬・劇薬・麻薬、血液製剤を含む)			II	II	
救命救急処置技術	①意識レベルの把握		★	I	I	
	②気道確保		★	II	II	
	③人工呼吸		★	II	II	
	④閉鎖式心臓マッサージ		★	II	II	
	⑤気管挿管の準備と介助		★	II	II	
	⑥外傷性の止血			II	II	
	⑦チームメンバーへの応援要請		★	I	I	
症状・生体機能管理技術	①バイタルサイン(呼吸・脈拍・体温・血圧)の観察と解釈		★	I	I	
	②身体計測		★	I	I	
	③静脈血採血と検体の取り扱い		★	I	I	
	④動脈血採血の準備と検体の取り扱い			I	I	
	⑤採尿・尿検査の方法と検体の取り扱い			I	I	
	⑥血糖値測定と検体の取り扱い		★	I	I	
	⑦心電図モニター・12誘導心電図の装着、管理			I	I	
	⑧パルスオキシメーターによる測定		★	I	I	
苦痛の緩和・安楽確保の技術	①安楽な体位の保持		★	II	I	
	②薬法等身体安楽促進ケア			II	I	
	③リラクゼーション技法(例:呼吸法・自律訓練法等)			II	II	
	④精神的安寧を保つための看護ケア(例:患者の嗜好や習慣等を取り入れたケアを行う等)			II	II	
感染予防技術	①スタンダードプリコーション(標準予防策)の実施		★	I	I	
	②必要な防護用具(手袋、ゴーグル、ガウン等)の選択		★	I	I	
	③無菌操作の実施		★	I	I	
	④医療廃棄物規定に沿った適切な取扱い		★	I	I	
	⑤針刺し切創、粘膜暴露等による職業感染防止対策と事故後の対応		★	I	I	
	⑥洗浄・消毒・滅菌の適切な選択			I	I	
安全確保の技術	①誤薬防止の手順に沿った与薬		★	I	I	
	②患者誤認防止策の実施		★	I	I	
	③転棟転落防止策の実施		★	I	I	
	④薬剤・放射線暴露防止策の実施			II	II	
死亡時のケアに関する技術	①死後のケア			III	II	
評価目		/				/